

発行：余市協会病院  
 発行日：平成 28 年 1 月 1 日  
 発行人：吉田 秀明  
 編集人：広報委員会  
 お問い合わせ：0135-23-3126



# 新年のご挨拶

余市病院 院長 吉田秀明

みなさま、新年明けましておめでとうございます。

余市病院は、昨年2月に電子カルテとオーダーリングシステムの同時導入という内部的に大きな挑戦がありましたが、今年は3月初旬に病院機能評価機構の審査を受けることが決定していますので、「対外的な挑戦」で気の抜けない一年のスタートとなります。

新しい年といえば「夢」とか「抱負」などがテーマになりますが、皆様はこの一年にどのような願いをかけられたでしょうか。

私には夢があります。多くの医療者がここ余市に集い、情報を交換し、スキルを上げ、あるいはリフレッシュして、個々の目的を持ってまた全国・世界各地に散っていく、余市がそんな「地域医療のメッカ」になることです。

その中核は、昨年正式に発足した「地域医療国際支援センター（CICMT）；<http://cicmt.com>」です。CICMTは、おもに開発途上にある海外での医療支援と北海道の地域医療には、実践の場における環境や必要とされる知識・技術、そしてなによりも関わる医療者のモチベーションなどに多くの共通点があることから、地域における医療者確保と診療レベルアップを企図して始めた事業です。ザックリいうと、帰国時は余市病院で働いてもらうことを条件に、在職身分のまま海外でも活動できるという仕組みです。

昨年7月には東京代々木で地域医療と国際保健に関するセミナー（とちノきセミナー）を主催し、全国から集まった140名の方々による熱気に満ちた意見交換や、CICMT参加希望者（医師、看護師）の接触などから、大きな手応えを感じております。今年はCICMTをさらに拡充（拠点病院を増や）して、医療者を集めるとともに、医療系の学生にも関心を持ってもらえるように工夫したいと思います。まずは北海道の地域医療をここ余市が中心となって後志から充実させる、これが第一歩です。

ところで、現在の余市病院の建物についてですが、平成4年に建造されて23年が過ぎました。20年以上経ったわりにはきれいな方と思いますが、いかんせん設計理念が古く、医療機器の増加やIT化なども加わって、少なくとも一般病棟と救急室は明らかに手狭な状態です。そこで5年以内を目処に部分的な新・改築を計画したいと思います。さらに同時に建造された看護師寮は老朽化が激しく、また、前述のCICMTにも関連して単身者の住居もますます必要となる見込ですので、数十戸規模の単身者用マンションを早急に整備する必要があると考えています。

最後に、余市病院は北海道社会事業協会の7つの病院中、一番小規模な病院ですが、地域の皆様からの御支援と職員個々の頑張りにより、なんとか健全に運営を続けることができております。今後もなお一層、地域に貢献できるよう、そして職員一人一人が誇りとやりがいを実感して生き生きと職務に励めるよう、心がけて経営してまいります。

余市病院が北後志の皆様が必要とされる「地域医療」を実践する病院であり続けながら、「国際支援」というキーワードを加え「全国区」に飛躍する、今年をそんな一年にしたいなと、夢んでいます。

平成 2 8 年 元旦



12月17日（木）18:30より「澤田まさ子とその仲間たち」御一行をお迎えしてクリスマスロビーコンサートが開催されました。患者様、ご家族、職員など合わせて 60 人程集まり普段なかなかライブで聞く事ができないクラシックの音色に耳を傾けておりました。

ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、コントラバス、フルートなどの楽器でクリスマスにちなんだ楽曲を約 40 分演奏していただき、最後は“きよしこの夜”を皆で合唱しフィナーレとなり大変盛り上がりしました♪

クリスマスコンサート



**救急件数** (12月) 外来受診247件 うち入院67件 救急車来院85件 うち入院47件